

一般質問通告書（令和3年3月定例会市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
1	伊藤 淳	1. 認知症の人を地域で見守っているケースへの支援について	(1) 家族による介護が期待できない独居の認知症の人を、区長・民生委員・福祉委員などの地域住民が、見守りなどの支援を行っている場合について、令和元年6月定例会において「認知症の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、本人とその家族及び地域住民の支援体制の構築に向けて継続的に取り組んでいきたいと考えています」との答弁を頂きました。そこで、その後の進捗状況など、お尋ねします。 ① 昨年度の地域で見守っているケースへの支援の件数を教えてください。 ② 課題と今後の取組みについて教えてください。		
		2. 高齢者施策の日常生活用具給付・貸与事業について	(1) 要支援2以上の一人暮らしの高齢者で、身体上又は精神上の障がいがあり日常生活を営むのに支障がある高齢者に対し、日常生活の便宜を図るため日常生活用具を給付（貸与）する事業で、「火災報知器」「自動消火器」「電磁調理器」が品目となっているものについてですが、以下の2点について、お尋ねします。 ① 平成28年度以降、令和元年度まで、各年度の利用者数と品目を教えてください。 ② その実績を踏まえて、本事業についての課題と今後について教えてください。		
		3. 避難所の環境整備について	(1) 被災地において、怖いのは「情報」が無い事だと言われます。そこで、避難所の環境整備の一環として、特設公衆電話やケーブルテレビなど、避難者に対する「情報」の提供方法について、現状と今後の取組みについて市のお考えを教えてください。		
2	匹田 久美子	1. 市民サービスの向上と業務の効率化のための、押印削減の流れについて	(1) 行政文書における押印の削減について、これまでどのように取り組んできたか。 (2) 押印削減への今後の取組みはどのように進んでいくのか。 (3) 行政手続きにおけるオンライン申請の利用とその拡大について、どう取り組んでいくか。		
		2. 中学校の部活動を地域とともに充実させていく取組みについて	(1) 中学校の部活動が抱える課題について、学校側と、生徒側に分けてどのように整理・把握しているか。 (2) 部活動の指導員制度や、休日の地域活動への移行が示されているが、現状はどのようになっているか。 (3) 子どもにとって望ましい部活動の環境を整えるために、学校・地域・保護者との協力体制をどう深めていくか。		

一般質問通告書（令和3年3月定例会市議会）

質問順序	質問者	質問の要旨	具体的内容	答弁順序	答弁者
3	戸 匹 映 二	<p>1. 断らない相談支援体制について</p> <p>2. ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）の活用について</p> <p>3. 防災士及びジュニア防災リーダーの養成と活動支援について</p>	<p>(1) 現在の相談支援体制について</p> <p>① 現在の介護・障がい・子ども・困窮に関する相談支援事業の現状と課題認識を伺う。</p> <p>(2) 重層的支援体制整備事業について</p> <p>① 令和3年度から重層的支援体制整備事業が全国の市町村を対象に任意で開始されることになったが、その目的と概要を伺う。</p> <p>② 重層的支援体制整備事業への取り組みについて臼杵市の考えを伺う。</p> <p>(1) 「広報臼杵」へのUDフォントの活用状況について</p> <p>① 「広報臼杵」へのUDフォント導入後の評価や課題認識を伺う。</p> <p>(2) UDフォント活用の拡大について</p> <p>① 行政の様々な書類や申請書、また学校教育や社会教育の現場においても印刷物等にUDフォントの活用を行っては如何か。</p> <p>② オンラインでの文書の表示についてもUDフォントの活用を行っては如何か。</p> <p>(1) これまでの養成の成果と現状について</p> <p>① 防災士ならびにジュニア防災リーダー養成の成果及び現状の課題認識を伺う。</p> <p>(2) 今後の養成への取り組みについて</p> <p>① 防災士及びジュニア防災リーダーの今後の養成に対する取組への考えを伺う。</p> <p>② 若い世代の養成へ向け、ジュニア防災リーダーからの防災士資格取得を推進すると共に、親子ペアでの取得など、新たな養成方法を推進しては如何か。</p> <p>(3) 防災士連絡協議会の体制整備について</p> <p>① 防災士連絡協議会の組織体制の整備や広報などの強化が必要と考える。 それに係る経費を「臼杵市自主防災組織・防災士連絡協議会等活性化事業補助金」の交付対象事業に加えるなど、支援を行う必要があると考えるが如何か。</p>		
4	広 田 精 治	<p>1. 国民健康保険税の負担軽減について</p> <p>2. (仮称)大分野津太陽光発電事業計画について</p>	<p>(1) 国民健康保険税の負担軽減について伺う。</p> <p>① 加入者世帯の所得階層別世帯数（所得なし・30万円未満など把握している方法での集計で可）</p> <p>② 加入世帯の被保険者数の平均と平均所得金額</p> <p>③ 世帯主の職業別世帯数割合（農林水産業・その他の自営業・被用者・その他の職業・無職）</p> <p>④ 国保税の滞納世帯数と滞納額</p> <p>⑤ 被保険者の内、未就学児の数、小学生から高校生までの数</p> <p>(2) 2015年度国民健康保険法改正にあたり「子どもに係る均等割保険料の軽減措置について、地方創生の観点や地方からの提案も踏まえ、現行制度の趣旨や国保財政に与える影響等を考慮しながら引き続き議論すること」との参議院付帯決議がなされ、2019年には全国知事会、市長会が相次いで「子どもの均等割の軽減」を国に要望。昨年12月、国は2022年度から「子育て世帯の負担軽減」を進めるとして、子どもの均等割部分の5割を未就学児に限って軽減する方針を決めた。 本市においては、子育て支援策として子ども（18歳以下）の均等割の全額免除について検討、推進する考えがあるか伺う。</p> <p>(1) 大分野津太陽光発電事業計画の進行、現状を伺う。</p>		

一般質問通告書（令和3年3月定例会市議会）

質問順序	質問者	質問の要旨	具体的内容	答弁順序	答弁者
5	若林 純一	1. 「祈りの回廊」構想について	<p>市長は、平成28年9月定例会で「キリシタン大名、大友宗麟の風情を残す城下町の景観と、仏教文化を代表する国宝白杵石仏、そして日本で唯一完全な形で残る下藤地区のキリシタン墓地を結ぶ祈りをキーワードにした包括的なストーリーをつくった上で、国内外の人間の心とか、宗教に関心を持っている人たちに訪れてもらう構想づくりを始めます。白杵に残る類いまれな財産を世界に発信できるプロジェクトを立ち上げ、新たな白杵の魅力づくりを行いたいと思っています。」と表明、HPの「市長あいさつ」には「キリシタン大名大友宗麟の風情を残す城下町と仏教文化を代表する国宝白杵石仏、日本で唯一完全な形で残る下藤キリシタン墓地を『祈り』をキーワードに国内外に発信し、交流人口の拡大に努めます。」と記載されました。</p> <p>「大友宗麟」に焦点をあてた、交流人口の拡大への取り組みに期待していましたが、近頃HPは更新され「大友宗麟」の表記は消えました。また、第2次白杵市総合計画後期基本計画の「祈りの回廊構想の実現に向けた検討」にも「大友宗麟」の記述はありません。</p> <p>(1) 大分市では「大友宗麟」に関する遺物の展示会やシンポジウムが頻繁に開催されています。大友宗麟が最盛期を過ぎた白杵市でも「白杵城跡」や「教会群があったと思われる場所」などの発掘が進めば多くの遺物が見つかるかと期待されますがいかががお考えでしょうか。</p> <p>(2) 大分市及び津久見市には「大友宗麟像」がありますが白杵市にはありません。このことについてどのようにお考えでしょうか。</p> <p>(3) 「大友宗麟」をコンセプト（全体を貫く基本的な観点・考え方）とした催しを企画するお考えはありませんか。</p>		
		2. パークゴルフ場について	<p>概算工事2億3千万円、完成後も年間1500万円ほどの維持管理費に対し、収入は260万円と想定されています。赤字を減らすためにも、多くの方々に利用していただく必要があります。</p> <p>魅力ある施設にする必要があると考えますが、廃棄物処分場跡地ゆえの制限があり心配されます。以下の点についてどのようにお考えでしょうか。</p> <p>(1) コースに変化をつけるための盛土については、どの程度可能なのでしょうか。</p> <p>(2) 高木は植樹できないと聞いています。その理由と許容範囲についてお知らせください。</p>		
		3. コロナ禍でのイベントについて	<p>感染防止と社会経済活動の両立という難しい課題解決に向けて「白杵市におけるイベント等の開催に関する基準」が設けられました。イベントの中止が続けざまに報じられてきた中「桜まつり」や「NHKのど自慢」の案内が白杵市のHPに掲載されました。</p> <p>(1) 「桜まつり」及び「NHKのど自慢」は、前述の基準に照らし、どのように行われるのでしょうか。</p> <p>(2) 一時期、市の管理する施設の使用制限がなされ「体操教室」などの開催ができなくなりました。施設の利用に関する基準はどのようになっていますか。</p>		

一般質問通告書（令和3年3月定例会市議会）

質問順序	質問者	質問の要旨	具体的内容	答弁順序	答弁者
6	奥田 富美子	1. ごみの減量化について	<p>(1) ごみの減量化を進めるために、令和元年度に設置された「新環境センターに伴う一般廃棄物削減等作業部会」の進捗状況はどうなっていますか。</p> <p>(2) 令和2年3月に改訂された白杵市一般廃棄物処理基本計画によると、燃やせるごみの量は、2014年は413.32g/人、2019年は414.78g/人となっています。人口は減少していますが一人当たりの燃やせるごみの量は増えています。また、プラスチックごみの資源化量は、2014年の255.05トンから2019年195.31トンと減少しています。それらの理由をどのように捉えていますか。</p> <p>(3) ごみ減量化に向けてどのような具体的取り組みを考えていますか。</p>		
		2. 空き家対策について	<p>空き家の敷地に接している市道が未登録の場合、売買の際に銀行ローンが組めないなどの不都合が生じていると聞きます。</p> <p>(1) 未登録のままの市道の現状はどうなっていますか。</p> <p>(2) 今後、空き家の売買をスムーズにするために、優先順位を決めて登記を進めてはいかがでしょうか。</p>		
		3. 中心市街地活性化について	<p>(1) 中心部の駐車場を観光客や買い物客が無料で使用できるようにすることで、街中の賑わいの一助になると思われます。旧まるしよく屋の駐車場を、サーラ・デ・うすきを利用した場合は一時間無料としてきていますが、その成果と今後の課題についてどう考えますか。</p> <p>(2) 車両進入時間に制限を設けて、歩行者が最優先される八町大路にはいかがでしょうか。</p>		
7	河野 巧	1. 土砂（建設残土）等たい積行為について	<p>土砂等、特に建設残土を山間部の谷間の埋立てや農地の嵩上げ等に使用するケースや単に投棄され放置された結果、土砂の流出や崩壊、自然生態系への影響、土壌汚染や地下水汚染などの問題が全国的にも増えたことで、土砂等たい積行為に関する条例を制定する自治体が増えている。</p> <p>(1) 白杵市内の土砂等たい積行為の現状について</p> <p>(2) 白杵市独自の条例制定（土砂等のたい積行為）について</p>		
		2. 選挙における投票率向上に向けた取り組みについて	<p>今秋には衆議院議員選挙が想定され、また来春には白杵市議会議員選挙を迎える。政治離れやコロナ禍のなか、他市の投票率も低下が進んでおり、選挙時の投票率アップに向けて各自治体においても検討が進められていると認識している。</p> <p>(1) 白杵市の投票率アップに向けた取り組みについて</p> <p>(2) 投票日当日や期日前投票の公共交通機関の活用について</p> <p>(3) 選挙公報の発行やケーブルテレビの活用について</p> <p>(4) 投票立会人の高校生等18歳以上の参加について</p>		
		3. 市政4期目について	<p>住み心地一番のまちづくりに向けた「施策の6本柱」の中で「安心して子どもを産み、子育てできる環境づくり」とある。その中でも教育力の向上が掲げられている。中野市長は教育力の底上げが最大の少子化対策になると考え、大分県一を目指すと話されている。</p> <p>(1) 小中連携による教育力の向上についての考え</p> <p>(2) 小中一貫校による教育力の向上についての考え</p> <p>(3) 大分県一を目指すには何が必要だと考えるか</p>		
8	大塚 州章	1. 白杵市防災政策について	<p>(1) 東北の震災から10年を経過し、これまで防災士を中心として様々な防災力の強化についての取り組みを行ってきたが、その成果と課題についてお伺いしたい。</p> <p>(2) これからの防災力強化について、特に若年層やジュニアリーダーの防災士の増員についての考えをお伺いしたい。</p>		
		2. 白杵市産業促進政策について	<p>(1) 中野市長4期目の施策として掲げる6本柱の1つである「地域資源を活かした産業の振興」について、具体的な内容をお聞かせください。</p> <p>(2) リモート時代を迎える中、短期移住をし、白杵市で仕事をしながら観光を楽しむ、いわゆる『ワーケーション』への取り組みや、白杵城址を活用した城泊を始めてみてはいかがでしょうか。</p> <p>(3) 観光や企業誘致さらには移住という複合的な課題に対して市役所内の課を横断し、連携を強化する為のプロジェクトチームを組み、多様なニーズに対応する事が出来る体制を検討されてはいかがでしょうか。</p>		

一般質問通告書（令和3年3月定例会市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
9	内藤 康弘	1. マイナンバーカードの普及、促進について	<p>国はコロナ渦で出てきた課題への対応のため、マイナンバーを基盤としたデジタル社会の構築を進めようとしています。また既に行われているテレワーク、学校や医療などでのオンライン化を定着、拡充し国と地方でバラバラとなっている情報システムの標準化と共通化を推進しようとしています。国は今後、デジタル化への重要ツールとしてマイナンバーカードの普及、促進を推進していきますが、今後の白杵市の対応を伺います。</p> <p>(1) 白杵市の普及・促進活動はどのように行っているか。                      (2) マイナンバーカードの普及率はどれくらいか。                      (3) 住民票等をコンビニエンスストアで取得できるサービスを今後予定しているか。</p>		
		2. 白杵市農業の現況について	<p>令和2年度の水稲作況は前年度から引き続き不作でした。九州は特に不作で作況指数で平均値85、大分県では77と全国で2番目の不作でした。理由はウンカの大量発生でこれは2年連続です。白杵市の被害状況と令和3年度の白杵市の対応を伺います。</p> <p>(1) 白杵市の被害面積はどれくらいか。                      (2) 関係機関との連携は今後どのように行うか。（防除方法、注意情報の広報活動等）</p>		